

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝原小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	分数・小数・整数の混同した計算の知識・技能に課題が見られたため、基礎的・基本的な技能を身に付けさせていくことが課題である。また、今回のさいたま市学力調査の結果から、ただ計算ができるようにさせるだけでなく、割り算の概念的な部分もしっかりと理解させていくことが必要と考える。そのためには、児童のつまずきを把握することや今年度同様に、教材研究を入念に行っていくことが大切である。
思考・判断・表現	5・6年生の算数科の領域C「図形」において、さいたま市の平均正答率と比べて低いことが課題である。次年度は、この結果を職員が把握した上で、教材研究を行うようにする。 また、今後も、学校課題研修で行った「芝原スタンダード」を取り入れた授業を行い、児童が解決の見通しをもって自力解決する場面を授業で設定する授業を行っていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> さいたま市学習調査において、算数科の平均正答率が市の平均正答率を下回っている。ほぼ全ての領域において、3ポイント以上下回っている。 <指導上の課題> 正答率の分布図を見ると、正答率の個人差が大きく、個に応じた指導を充実させる必要がある。	⇒ 従来の問題解決型の学習に捉われるのではなく、1時間の授業の流れや単元計画を工夫することで、「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した授業改善を行っていく。【毎時間】 単元ごとに学年で教材研究を行うことにより、児童が主体的に学習に取り組み、基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。【毎単元ごと】
思考・判断・表現	<学習上の課題> さいたま市学習調査において、算数科の平均正答率が市の平均正答率を下回っている。ほぼ全ての領域において、3ポイント以上下回っている。 <指導上の課題> 正答率の分布図を見ると、正答率の個人差が大きく、個に応じた指導を充実させる必要がある。	⇒ 今年度の芝原小学校は学校課題研修として、「わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」を目指している。算数科における授業の型「芝原スタンダード」を作り、全職員と共通認識を図る。そうすることで、解決の見通しをもって自力解決する場面を授業で設定できるようにする。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	単元ごとに学年で教材研究を行い、児童が主体的に学習に取り組み、基本的な知識及び技能の定着を図ることができた。全学年が研究授業・協議会を1回ずつ取り組んだ。浦和大学の教授を講師として招き、算数科における教材研究の仕方などを学び、指導に生かすことができた。また、学力向上カウンセリング学校訪問を開催することで、職員が芝原小の児童の実態の分析を行い、今後の指導に役立てることができた。
思考・判断・表現	B	算数科における授業の型「芝原スタンダード」をもとに全職員が指導を行うことができた。その結果、解決の見通しをもって自力解決する場面を授業で設定することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数科の領域A「数と計算」における小数や分数の加法についての設問や数量関係を式に表し、計算する設問については、全国平均の正答率を上回っていた。 算数科の領域B「図形」において、全国の正答率に比べて5ポイント以上低かった。具体的には、平行四辺形の性質をもとに作図を問題や台形の意味や性質についての理解、角の大きさの本質についての理解度が低いことが課題であると考えられる。
思考・判断・表現	思考・判断・表現の項目においては、ほぼ全ての領域で全国の正答率を下回っていた。図形の面積の答えの求め方を説明する設問など、答えの求め方を図や式で説明する設問に関しては、全国の正答率に比べて5ポイント以上低かった。そのため、自分の考えを表現することが課題であると考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	6年生における算数科の領域A「数と計算」において、さいたま市の正答率に比べて5ポイント以上低かった。具体的には、分数・小数・整数の混合した整数の計算や、1にあたる大きさを求めることに除法が求められることを理解していることに課題が見られた。 また、6年生における算数科の領域E「データの活用」において、さいたま市の正答率に比べて5ポイント以上低かった。具体的には、円グラフに表されている事柄を読み取ることに課題が見られた。
思考・判断・表現	6年生における算数科の領域C「図形」において、さいたま市の正答率に比べて5ポイント以上低かった。具体的には、円の半径から円周を求めることや、角柱の底面や高さがどこかを理解し、体積を求めること、図形を構成する要素に着目し、作図をしている図形を考えることに課題が見られた。 また、6年生における算数科の領域D「変化と関係」において、さいたま市の正答率に比べて5ポイント以上低かった。具体的には、基準量・比較量・割合の関係を捉え、比較量を求めることに課題が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	単元ごとに学年で教材研究を行い、児童が主体的に学習に取り組み、基本的な知識及び技能の確実な定着を図っている。 また、学校全体で研究授業・協議会を行うことで、指導方法の共通理解や指導力の向上を図ることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	算数科における授業の型「芝原スタンダード」をもとに全職員が指導を行うことができている。その中で、児童同士が自由に意見交換ができる時間も十分に確保しているため、全国学力調査で課題であった「自分の考えを表現する」力も身に付けられると考える。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)